

RO処理設備による雨水処理状況について

平成26年10月27日

東京電力株式会社

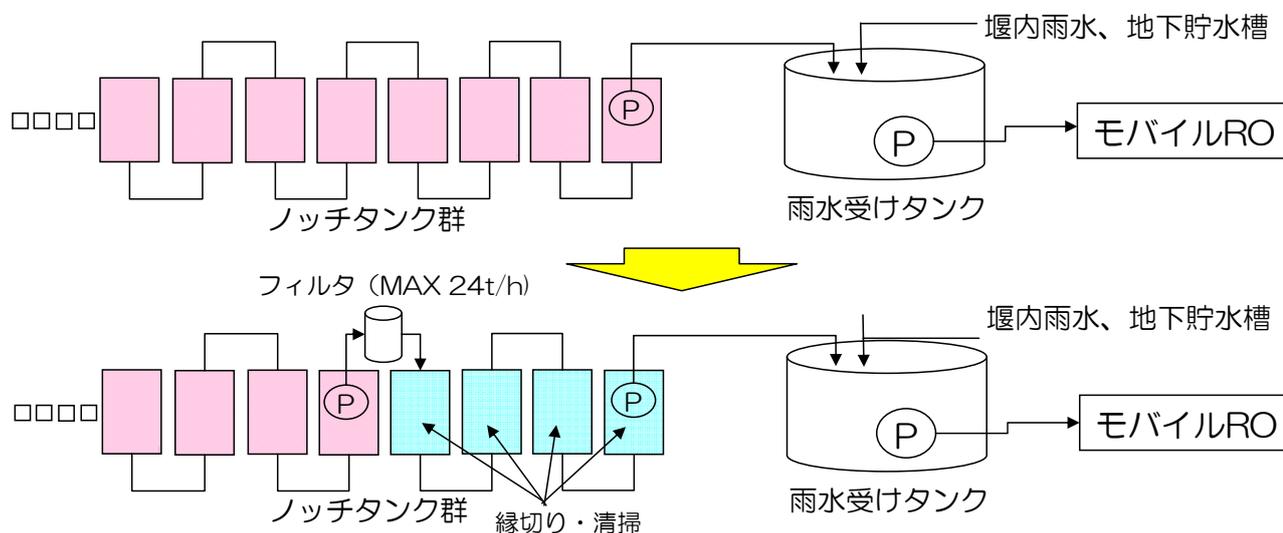
5/21より雨水の処理運用を開始し、汚染水タンク堰内にたまった雨水に加え、これまでに堰内雨水を回収している4000tノッチタンク、地下貯水槽Ⅳ、Ⅶの貯留水を処理してきた。本日は、これまでの処理状況と今後の見通しについて報告する。



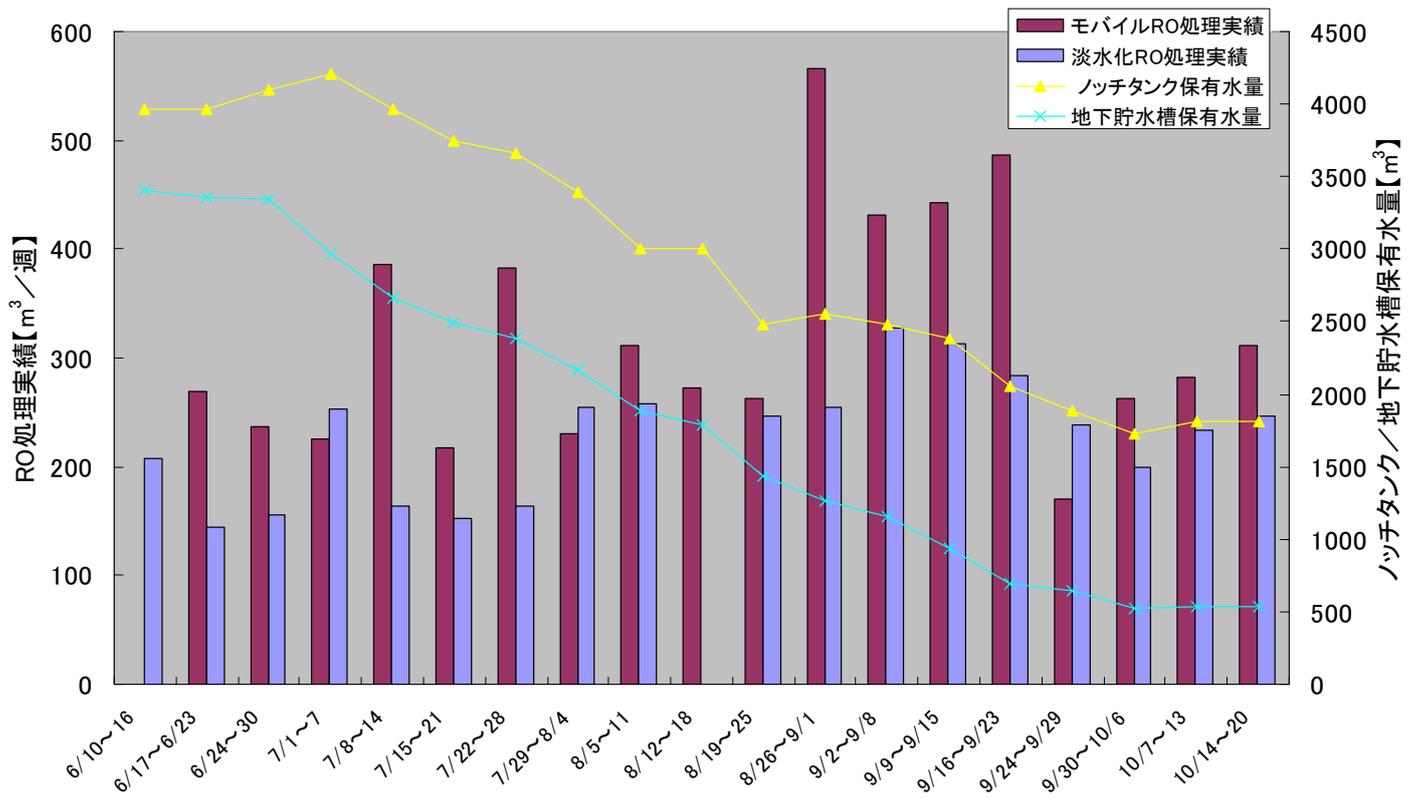
東京電力

これまでの対応状況

- 双葉側、大熊側に連続散水ラインを設けることで、散水能力を増強。
- 4000tノッチタンクにフィルタを追設することでROの負荷を軽減（8/6～）（下図参照）。
- また、運用面での強化として、運転サイクルの見直し（4日/サイクル→3日/サイクル）、休日運転（日曜除く）を実施し、雨水処理を加速化（8/25～）。
- 9月下旬頃より、RO膜のつまりによる流量低下傾向を確認し、交換に向けて準備中（11月中旬以降、順次交換予定）。



雨水RO処理実績



4000tノッチタンク、地下貯水槽雨水処理完了見込み

- 地下貯水槽の残水は530tまで減少しており、11月中には処理を完了する見込み。
- 4000tノッチタンク群の内、1000tノッチタンクは放射能濃度の関係でタービン建屋に移送。
10/9の移送をもって既設ポンプで移送可能な量（残水370t）まで移送完了。
- 3000tノッチタンクの残水は1440tあり、RO膜のつまりに伴う処理量の低下、堰内雨水を優先的に処理していくことを考慮し、年度内には処理が完了する見込み。

なお、1000tノッチタンクについては、今後も、タンクパトロール、堰内ドレン弁の閉運用を継続した上で、RO濃縮水の排出先、堰内に汚染水が滴下した場合の受け入れ先として使用予定。

※1：処理完了見込みについては、今後の降雨状況により変更になる可能性有り。

※2：RO膜手配中（11月中旬以降、順次交換予定）、現在少しでも処理量を稼ぐべく運転時間を延長（6h/日→7h/日）。